

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)
／栗原 慶

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

テーマは陶磁器の特性を教材に活かす研究。陶土を焼成し形を形成していく過程においては、様々な不確定な要素を予測し実践していかねばならないが、学校教育の現場で授業実践としてその本質にせまることは難しい。自然素材と対話し焼成過程を経たのち「食」にもかかわる教材として、有効かつ効率的なアプローチを探る。計画は教材に適した陶土の選定、成形方法、焼成方法の検討を行う。

2. 点検・評価

年度目標・中間報告の際に挙げたテーマをより検討し「伝統工芸(陶芸)の役割について・教育的視点からの研究」とした。日本の近・現代美術は西洋的思考に支配され、自己表現の追及という側面が強調されてきた。伝統工芸は生活や自然観といったものを本質的に内包した芸術であり、教育現場でより深く取り上げていくべきテーマであるべきだが、美術教育の現場でもその芸術的思想を取り入れた実践は多くない。今後論文や作品制作として研究を行っていく過程で予算申請についても具体的にしていきたいが、科研費申請として申請できる段階までには至っていない。自身の制作や授業での学生による制作、介護施設での制作などが具体的事例となるよう検討と活動は行っている。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

教育に関する高度な専門性を確保するためには、広報的な意味において、専門領域での教員個人の社会的認知度を高めしていく必要性を感じる。作品発表をかかさず全国的に展開することを継続し、鳴門教育大学の教員として社会に発信したい。またゼミ学生が公募展等に出品しやすい環境をつくり、在学生が受験者の手本となるよう指導したい。

2. 点検・評価

東京での展覧会や大分での学会に出席した際は、折に触れ他大学の先生方との情報交換や、鳴門教育大学の教員採用率の高さなどの周知に努めた。今後は、首都圏よりは関西以西の大学の方が地理的に学生を集めやすいと思うので、瀬戸内圏の大学にいる知人教員ともコンタクトをとり、周知に努めていく。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

本年度より学生支援委員会委員となったことを活かし、委員会を通し本学の学生の生活実態を把握することに努めたい。適切な助言・指導が行えるように授業以外でも積極的に学生との関わりを心がけたい。

2. 点検・評価

学生生活支援委員として、大学祭運営やその反省会における助言、また学園便り編集に編集委員としてかかわった。教育に関しては、授業を通して釉薬テストなどの資料制作や、学生の協力で焼成テストを進め、今後の授業環境を整備した。特に現段階での陶芸室の設備更新を終え、授業・ゼミ生の制作環境改善のための室内配置が、学生の協力のもと完了した。授業評価についても、おおむね高評価をいただいている。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

研究制作においては、これまでの磁土における素材表現の更なる展開を進める。従来からの蠟抜きした文様に泥漿を塗り重ねることによる積層の表現と共に、胎土に気泡を取り込ませ削りだす手法を試み「水」の表現に磨きをかけたい。発表においては、(社)日本工芸会による公募展等に出品し入選を目指すこととし、東京などでも発表活動を継続する。また連合学校教育学研究科「合」資格取得のための論文執筆の為に資料収集を行う。

2. 点検・評価

作品制作での研究は一応実績として達成できたと感じている。同時に更なる実績の積み重ねが出来たのではないかという思いもある。環境整備の為制作点数が以前より少なくなってしまう、作品の成功率が下がった点も反省点である。今後磁土による自身のイメージの具現化をより進めていくことと、教育における伝統工芸の役割についての考察を深めていきたい。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

各種委員会の委員活動や学内行事に、真摯に取り組みたい。

2. 点検・評価

エコアクション21専門部会委員として認証登録中間審査のヒアリングに、コースの取り組みと、研究室において自身の授業内容などを紹介させて頂いた。

委員・議員としてかかわった委員会や会議を通して、本学の状況や体制の把握に努めそれぞれ積極的にかかわることができた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

新任大学教員による附属学校での研修において、学校現場の実態に則したカリキュラムを組み望みたい。附属学校での指導の中で、大学の窯を使用した焼成を行い連携授業としたい。

2. 点検・評価

附属校への訪問、研究会参加、授業協力を行った。個人的に徳島県下のデイサービスでの取り組みを見学させていただいたり、工芸会四国支部に移転入会をした。

また鳴門市の業務にも協力した。地域に根差した活動を継続していきたいと考え、実行できている。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

今年度は学長裁量経費による陶芸室設備更新が無事終わり、工芸分野の研究・授業の体制を整えることが出来た。